

勉強会をとおして、住民の意識の変化を促す

社会福祉法人 神栖市社会福祉協議会 [茨城県神栖市]

事務局長 ^{きつた まさる} 橘田 勝 さん



神栖市社会福祉協議会（以下、市社協）では、地域のさまざまな社会資源を活性化させて、生活のしづらさを感じている人たちの問題解決を図りたいとの思いから、平成9（1997）年度より毎月1回「地域ネットワーク勉強会」の取り組みを実施しています。

「地域ネットワーク勉強会」のきっかけと経緯

この勉強会は、医療も含めた福祉領域に存在する社会資源が、自分たちの役割を自覚し合いながら、取り組むべき課題にきちんと取り組むことで、解決できる問題はたくさんあるのではないかと。また、課題に取り組む支援者一人ひとりのモチベーションを基礎とする社会資源全体のムードの高まりが、地域福祉を高めていくのではないかとという思いで実施してきました。

神栖市には、精神障害者の支援に関する社会資源が極めて少ないことや、発達障害児の早期発見から早期療育に向けた支援体制をいち早く構築しなければならないということが浮き彫りになったため、勉強会では特に、精神障害者と発達障害児の領域について、意図的に力を入れて取り組んでいます。

障害者（児）支援に関するこれまでの成果

取り組みにおける成果として、市社協で精神障害者のためのデイケア事業を担えることになり、その後、専門相談窓口の開設や障害者相談支援事業の受託につながりました。

また、勉強会に参加した発達障害児の保護者たちが自主的に勉強会やサークルを開いたり、精神障害者を抱える家族の代表者が、行政の障害者支援計画



「地域ネットワーク勉強会」

のメンバーとしてきちんと位置づけられるようにもなりました。これは、これまであまり光の当たっていなかった領域にいる人びとの生活課題を、みんなで共有しようとするムードの高まりが生んだ結果だと思っています。

さらには、発達障害児の早期発見・早期療育に関する勉強会をきっかけにつながりができた臨床発達心理士や作業療法士等の専門家に協力をいただき、市内の保育所・幼稚園、児童館、小学校等で発達障害児にかかわる人たちを対象に、発達障害児の療育に関する夜間講座を5年実施し、161名の修了生を輩出することができました。これは「私立・公立問わず、市内すべての児童関係施設に最低でも1人の講座修了生を配置しよう」という当初目標を概ね達成できたものでした。今後は、修了生たちが所属施設の垣根を越えて、お互いにアドバイスし合えるネットワークを太く強くし、すべての児童に関する支援のストライクゾーンを広げていくことを新たな目標としています。

市社協が直接ボランティアや市民活動家を養成するわけではないのですが、勉強会を通じて課題を共有し、お互いに何ができるかを考えていくなかで、住民も一緒に福祉に取り組んでいるというムードの高まりを実感しています。

社協によるソーシャルアクションとしての意義

勉強会は、我々が地域ニーズを把握する場でもあり、ニーズを創っていく場でもあります。発達障害や精神障害の課題は、市社協の窓口に来た一つの相談をきっかけに、勉強会を開いてみると、多くのニーズがあったことを気づかせてくれました。

地域の社会資源とつながり合って、誰も手をつけられないでいた領域の小さな問題を社会化し、その取り組みを

市民や行政に評価していただきながら、新しい制度につくり変えていくというソーシャルアクションなどは、どれだけ社会が変化しても、変わらず求められる最も重要な社協機能であり、その実践に社協の存在意義があるのだと思っています。

勉強会を通じて、社会福祉への関心・参加といったムードが高まってくれば、意図的にボランティアや市民活動家を増やそうとしなくても、我々が今まで出会ったことのないような人たちが、自然に市社協の窓口に来てくれることになると思います。

勉強会の継続の秘訣

継続の秘訣としては、負担にならないことだと思います。職員が交代で勉強会の前回の報告と、今回のテーマについてのニュースを作成します。このニュースをFAXで送信したり、ホームページに掲載したりしながら「このテーマで何人くるかな?」、「講師はどんな話をしてくれるか」というように、我々も社協職員としての殻を脱いで、楽しみながら勉強会に参加しています。

勉強会の後の食事会を講師と一緒にいき、そこで交流することで、また友達が一人増えたとか、知り合いをつくれたとか、アドバイスをくれる人を増やすくらいの気持ちでやっているの、無理なく続けることができています。

地域ネットワークによる市民の安心感の創出

社協だからこそ気づいて興せる取り組みを、積極的に進めていくための第一歩が「地域ネットワーク勉強会」です。

この勉強会で、今後も「誰か一人の困った」を拾い上げて、みんなで課題を共有し、自分たちの活動に持ち帰り、生かしていくという地域ネットワークのつながりを強化していきたいと考えています。

勉強会において、市民の生活の不安に直接かかわるさまざまな社会資源の人の意識が少しでも変わって元気になり、それぞれの領域を広く深くしていくことで、市民へのかかわり方も変化し、市民の安心感がより高まってくるのだと信じています。